

私の関心や専門の関係で朝鮮半島がらみの「後記」が多くて気が引けるが、今回、朝鮮半島情勢についての時評を書いたこともあり、脱稿後（と言っても10日もたっていないが）の状況についても少し触れておきたい。一つは10日、金正恩委員長が中国を訪問している。間近に迫った米朝首脳会談について中国指導部に説明することと経済開発への協力要請が目的とされている。米朝首脳会談についてはベトナムのハノイ（もしくはダナン）での2月下旬の開催が有力だと13日に、各メディアが報じた。

さらに10日、文在寅大統領の年頭の挨拶と記者懇談会があったが、日韓関係にはほとんど触れようとせず、これについて「さもありません」といった批判が日本のメディアを賑わしている。この4、5年、韓国の対日政策にかかわる政策担当者や研究者と話をすると「管理モード」という言葉がよく聞かれる。意外かもしれないが、保守・進歩を問わず、対日政策の政治利用は控え、これ以上波風を立てたくない、というのが本音のようである。そんな韓国政府の思惑にもかかわらず、ひたすら反韓感情があおられ、2019年は日韓関係が最悪の状況から始まろうとしている。

今号は、混迷するベネズエラの最新の動向を踏まえ、広くラテンアメリカの左派ないしは中道左派政権を評価するための論理の出発点を明らかにする論考をステイブ・エルナー氏から寄せていただいた。21世紀初頭における国民国家空洞化の実相を論じた岡野内論文<下>では、結論でグローバル資本主義の下での「生活世界の植民化」の問題が論じられていて興味深い。

今号は、久しく常態化していた発行の遅れをようやく回復できそうな見込みである。今後もこのペースを是非維持できるように最善を尽くしたい。

(2019/1/25 文 京 洙)

アジア・アフリカ研究

2019年 第59巻 第1号（通巻431号）

2019年1月25日発行 機関購読料：年間15,000円

編集・発行人 文 京 洙

発行所 特定非営利活動法人
アジア・アフリカ研究所

〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-17-10

Tel&Fax: 03 (3946) 1479

E-mail: aaken@bz01.plala.or.jp

URL: <http://www.aaij.or.jp/>

印刷所 三和印刷(株)
長野県長野市川中島町1822-1

本誌上で各論考の著者がその責任において述べた意見は、特定非営利活動法人（NPO法人）アジア・アフリカ研究所としての見解を表すものではありません。

The articles in *Quarterly Bulletin of Third World Studies* do not represent the views of The NPO Corporation Afro-Asian Institute of Japan (AAIJ). Responsibility for opinions expressed in them rests with their authors.